

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	京都府	市町村名	南丹市	所属ブロック	近畿
人口(H24.9.30 現在)	世帯数(H24.9.30 現在)	高齢化率(H24.9.30 現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
34,093	13,684	30.4	9,891		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
5	△	組織化は行えたが、実際活用するまでにいたらなかった。
9	△	事業開始時はもれない体制をとっていったが、事業後半では対象者のローリング等が不十分な点もあった。
12	×	共同募金からの配分は結果的になかった。共同提案で募金型の自動販売機に設置はで
14	△	遠方家族へのアプローチができなかった。

15	×	ゾーン内での事業展開となり、全市に広げての事業とは出来なかった。
16	×	商工会との協議は行えたが、特産品やグッズの作成までは出来なかった。
20	△	一定の報告まとめは出来たが、包括支援センターと一体でのまとめとなった。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

地域で疎遠となっている方の中には、初期の認知症等による判断力低下がみられる方が少なくなかった。このような方を地域で支えていく(地域とのトラブルや悪徳商法)ために権利擁護の必要性を感じた。このため、社協における権利擁護事業や後見制度に利用等に積極的に取り組んだ。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

市内でも過疎地域である合併前旧4町中2町を対象。

イ. 部局内の連携の仕方

部内高齢福祉部門、保健部門、地域の各支所と連携し事業を行った。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

運営委員会を設置して事業連携を図っていった。民生児童委員、商工会、老人クラブ等

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

対象者把握やニーズ把握のためのアンケートは行っていない。
対象者を選定する際、地域の民生児童委員と十分な協議・調整を行った。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

特に台帳もマップも作成していない。
月1回訪問調査員の連絡会議を開催し、対象者の状況等課題や心配な点、今後の対応等情報共有を行っている。

カ. 個人情報の取り扱い方

事業登録時に同意を取っている。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

本市においては、昼間に訪問できる人材が絶対的に少なく大変苦労した。
生活・介護サポーター養成事業を行い、地域で活躍いただける人材育成を行った。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

企業等資源の少ない本市においては民間企業からの寄付等は見込めない。
利用料の徴収も高齢者所得の低い本市で行いにくい。
他の地域福祉事業と関連を持たせ、事業そのものの経費を低額にするか、又は経費を発生させない工夫が必要。

ケ. その他

単独財源の厳しい本市のような自治体は一定の国及び府の財政支援が必要と考える。
額的に定額等でも財源裏づけがあれば事業継続しやすくなる。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	千葉県	市町村名	匝瑳市	所属ブロック	
人口(H24. 3.31現在)	世帯数(H24. 3.31現在)	高齢化率(H24. 3.31現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
39,590	14,139	27.6	39,590		

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)
また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
		10月から本事業に取り掛かり、10月下旬の時点で【7】調査の実施(調査の開始)まで行えている。

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

- ・買い物支援
- ・日頃の見守り及び地域での協力体制の構築
- ・災害時の支援体制の構築及びマップの作成

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ. その他」に御記入ください。(複数回答可)

- ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)
- イ. 部局内の連携の仕方
- ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方
- エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容
- オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方
- カ. 個人情報の取り扱い方◎
- キ. 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ
- ク. 自主財源確保のためのアイデア○
- ケ. その他

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	滋賀県	市町村名	米原市	所属ブロック	近畿ブロック
人口(H24.10.1現在)	世帯数(H24.10.1現在)	高齢化率(H24.10.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
40,703	13,744	25.37	山東 12,925 米原 11,614	伊吹 5,681 近江 10,483	

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

- ・要援護者のニーズ把握
- ・見守り体制の構築

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ. その他」に御記入ください。(複数回答可)

- ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)
- イ. 部局内の連携の仕方
- ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方
- エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容
- オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方
- ◎カ. 個人情報の取り扱い方
- キ. 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ
- ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

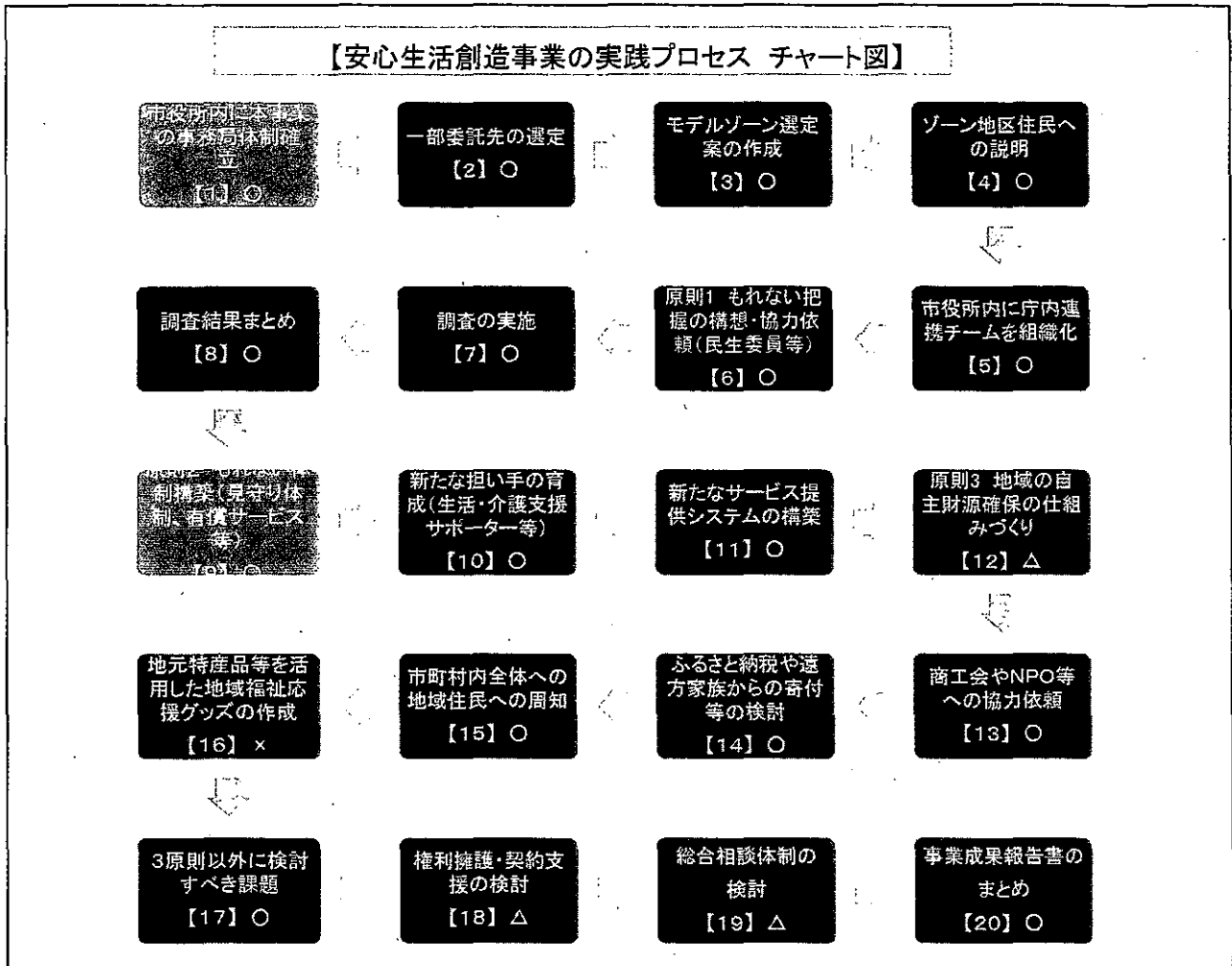
※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	富山県	市町村名	氷見市	所属ブロック	中部ブロック
人口(H24.10.1 現在)	世帯数(H24.10.1 現在)	高齢化率(H24.10.1 現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
52,245	17,653	31.4	朝日丘地区 5,164 久目地区 1,500		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
12	△	確保に対する取り組みは、小規模には実施したが財源とまで言える成果を挙げる事ができなかった。
16	×	取り組む優先順位からグッズ作成までには至らなかった。(社会資源の把握及び仕組みづくりは、引き続き今後検討する予定)
18	△	他の課題(総合相談支援体制の検討等)との兼ね合いで実践にまでつなげることができなかった。(時間的な制約)
19	△	現状把握及び市の施策として掲げることができたが実践するまでの具体的な議論ができなかった。(時間的な制約)

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

・地域の主体的な生活支援サービスの実施
・既存の見守り活動や開発した生活支援サービスを把握手段と位置付け身近な相談所の開設(把握相談機能の強化)
・地域の取り組みを支える専門職間連携の在り方を検討(①分野間の現状把握及び専門職人数等の支援体制格差の把握 ②総合相談支援システム構築を視野に入れた専門職間連携の構築)

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

・地域特性を考慮した選定(町部と山間部) ・既存組織の活用(地区社協及び自治会)

イ. 部局内の連携の仕方

・現状把握(調査)等から課題を設定し、広く関わるができる体制を整備した。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

・上記に加え、及び商工会議所等が関わりやすい具体的な取り組みを提案し、議論の場のみだけでなく、実践の場への関わりを重要視した。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

・モデルゾーンにおいて、主体的な活動へとつなげるために自分たちで項目を選定し、回収及び集計にも積極的に関わってもらえるようにした。(具体的には、調査後、追跡調査として聞き取りを住民自ら実施し、問題意識を持ってもらった。)
・調査目的を事前に明確にした。(課題を把握するためだけではなく、課題を把握し、具体的な支援策を実践するために調査することを目的とする。)

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

・マップについては、住民自ら地域踏査を行うこと。また、社会資源の落とし込みの際、地域で購入できる商品とそうでない商品を調査し、落とし込んだ。(マップ作成を手段として、生活支援サービスの開発や災害時の支援策の検討へとつなげた。)

カ. 個人情報の取り扱い方

・モデルゾーン内で把握した「気になる世帯」の情報をモデルゾーン内でどう取り扱うかの「個人情報の取り扱い方針」を作成した。(各地域でこの方針を明確にすれば、行政が保有している情報を開示できるシステムを現在構築中)

キ. 訪問員の養成のノウハウ

・全市単位ではなく、モデルゾーン単位で呼びかけを地域住民が行うことで、協力者(サポーターという)の確保につながった。また、生活・介護支援サポーター養成事業を活用し、シリーズで地域のことを知り、何が必要かを講座を通して、自分たちで企画する内容を住民と共に検討した。(知識吸収型ではなく、創造実行型の研修へ)

ク. 自主財源確保のためのアイデア

・目に見える成果を挙げるできていないため、アドバイスはできません。

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

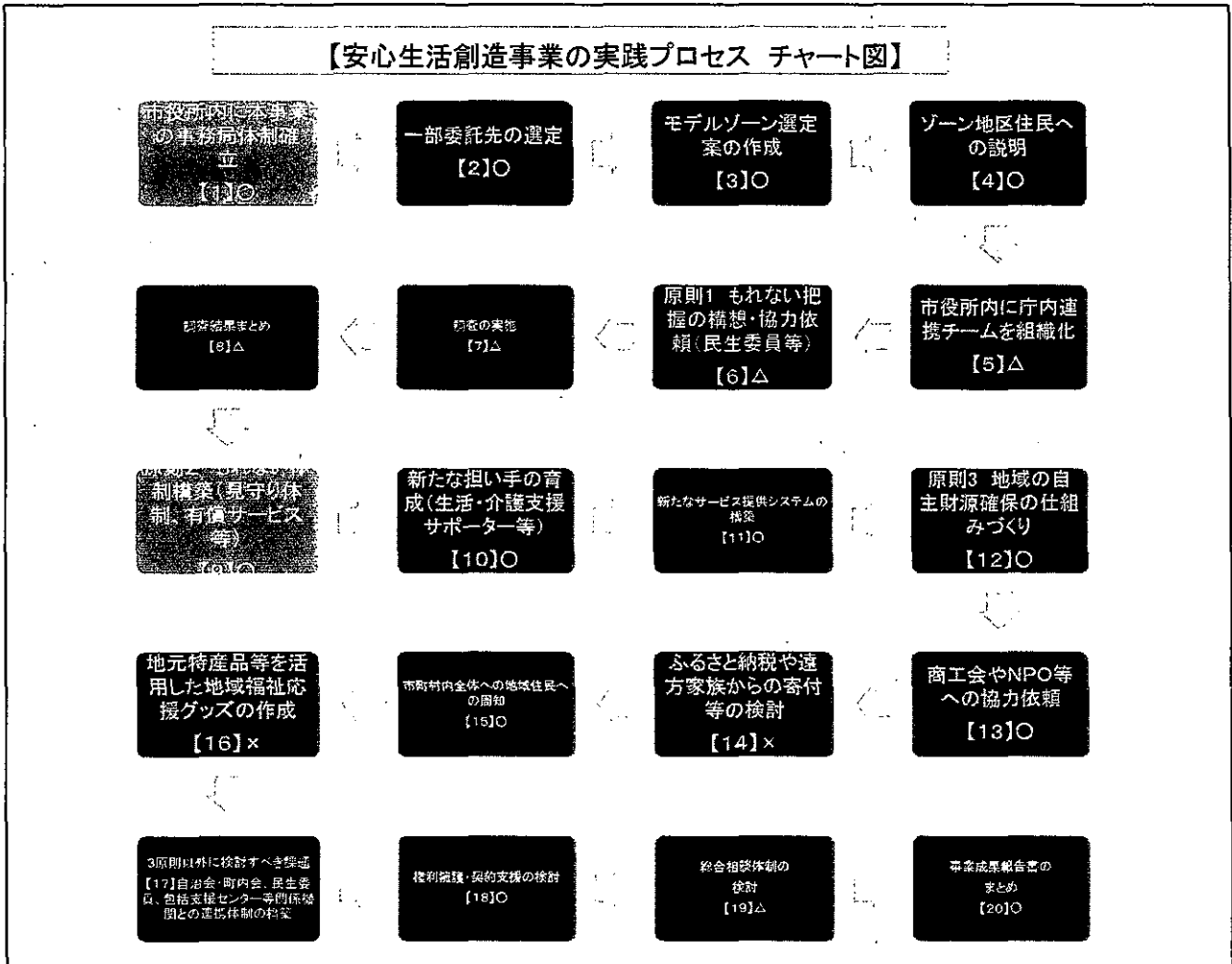
※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	神奈川県	市町村名	逗子市	所属ブロック	関東
人口(H24.10.1現在)	世帯数(H24. 1.1現在)	高齢化率(H24.10.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
60,374	26,445	28.53			

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
5	△	連携チームの組織化には至っていないが、協力体制は整っている。
6	△	自治会・町内会が組織されていない地域や民生委員欠員地区については十分ではない。
7	△	モデル地区(3地区)における調査の方法や精度は様々であった。
8	△	モデル地区(3地区)の、調査結果の取扱いは様々であった。
14	×	ふるさと納税、寄付等の検討には至らなかった。
16	×	地域福祉応援グッズ作成の検討には至らなかった。

19	△	行政、社会福祉協議会、地域包括支援センター等関係機関等との連携体制は整いつつあるものの、総合相談体制は整備されていない。社会福祉協議会にその役割を期待している現状がある。
----	---	---

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

・地域における住民相互の支え合いの必要性を、まずは日常からの近隣への意識を高めることから開始し、地域特性に応じた「お互いさま」の人づくり、地域づくりを自治会・町内会や民生委員を中心に地域主体で進めてきた。
 ・生活・介護サポーター養成講座やサポーター集会、地域づくり集会の開催により、地域に必要な人材の発掘・育成に努めた。参加者の多くが支え合いの担い手として活動している。
 ・モデル地区3地区の取り組みが、その他の5地区へと拡大した。現在では、多くの地区で検討が始まっている。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

自治会単位で、市域の東、中、西部から1地区ずつ(計3地区)を選定した。

イ. 部局内の連携の仕方

事業委託先(社会福祉協議会)からの例月報告や月1回発行する情報誌により、事業の進捗よく状況を共有した。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

月1回発行する情報誌により事業の進捗よく状況を共有するとともに、事業委託先(社会福祉協議会)が調整役となり、個別支援に係る連携に努めた。また、買い物支援による市内店舗との連携を図った。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

1地区については「困りごとアンケート」としてニーズ把握を行うとともに、自治会にサポート体制があることを住民にお知らせした。他の1地区については、訪問調査を実施した。残りの1地区については、具体的な生活支援を実施しているものの、住民アンケートは行わず、自治会、民生委員、見守りサポーター情報の集約により把握している。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

見守りサポーターが、支援を必要とする対象者の登録情報や聞き取り情報、地域情報を基に、支援マップを作成した。

カ. 個人情報の取り扱い方

実施要綱を作成し、手挙げによる登録及び同意制により個人情報を把握している。情報共有先は、社会福祉協議会と見守りサポーター登録者に限定している。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

生活・介護サポーター養成講座やサポーター集会、地域づくり集会の開催により、地域に必要な人材の発掘・育成に努めた。参加者の多くが支え合いの担い手として活動している。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

店舗に募金箱を設置

ケ. その他

※ このアンケートは人口規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会の詳細につきましては、追ってお知らせいたします。

御記入ありがとうございました。

【第7分科会】

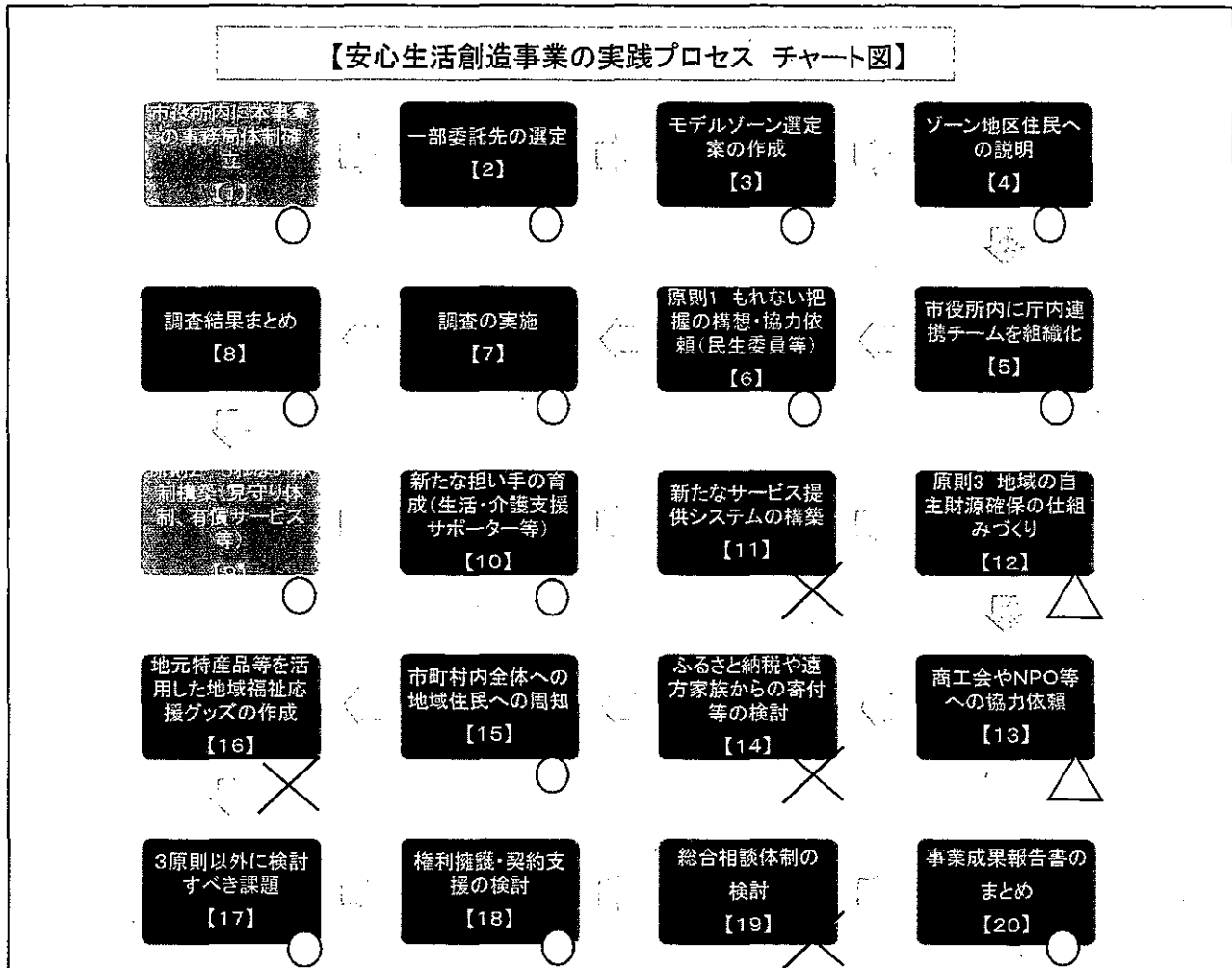
テーマ：個人情報への取扱い方

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	福岡県	市町村名	春日市	所属ブロック	九州
人口(H24.9.30現在)	世帯数(H24.9.30現在)	高齢化率(H24.9.30現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
110,781	45,143	16.97	110,781		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
11	×	考えていない 既存のサービス体制の充実を目指す
12	△	歳末助け合い募金を自治会の活動費として支出した。フリーマーケット、バザーで財源確保を行っているが、事業を支えるほどの金額に満たない。
13	△	生活応援のお店登録事業を実施しているが、利用者が少ない。
14	×	考えていない
16	×	考えていない
19	×	考えていない

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

本市においては、住民に対し「災害時」を切り口に事業を進めていくと理解が得やすいというのがわかったので、自治会では災害時での支援のしくみをつくりながら日頃の見守りのしくみをづくりも同時に進め、マップづくり・地域支え合いカードづくりをおこなった。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

本市は市域が狭いので、全体をゾーンにした。

イ. 部局内の連携の仕方

地域福祉担当、高齢者支援担当、障がい担当がそれぞれ3課にまたがっているので、連携しながら取り組んだ。
取りまとめは1課(地域福祉担当)で行った。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

本事業を社会福祉協議会に委託。
関係機関へは、定例会等で説明会を行った。
民間事業者へは、市内を訪問する企業に住民の異変に気づいたら連絡いただくよう文書で依頼した。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

住民アンケートは、春日市では行っていない。
取組地区の対象者には、ニーズ把握のための「困りごと聞き取り票」を用いている。(対象者宅に人の把握で訪問した際にニーズ把握もできるようにしている。)

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

・基盤対象者台帳作成の仕方
手上げ方式と同意方式を推進
手上げ方式の場合、自治会で回覧、自治会報等で取組みの周知と登録募集を行っているが、登録希望者が少ない。
同意方式は、対象となる範囲を決めて訪問(例:75歳以上独居・気になる世帯)対象者に対し、自治会や、民生委員、福祉推進委員(地域ボランティア)等で手分けして訪問し、登録を推進していく同意方式を取り入れている。
・マップ作成の仕方
社会福祉協議会から、拡大地図を準備
取組み者が地図を囲み、登録者、支援者(決まってから)、自治会関係者、避難場所、危険箇所などを地図に落としながら、確認し合って作成する方法を取っている。訪問対象範囲となった世帯の情報(住所、氏名、年齢)を民生委員から提供してもらう。

カ. 個人情報の取り扱い方

個人情報についてのガイドラインを作成し、自治会役員や福祉推進員には誓約書をとった。
また、カードやマップは鍵のかかるキャビネットなどで保管し、複写をしない、持ち出さないなどの取り決めをつかった。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

一定の養成研修を実施しているわけではないが、取組みが行われている期間中に安心生活創造事業の全容、特に地域支援ネットワークの取組みの具体的方法の説明をしている。
その中で自治会が「地域支え合いカード」を促進していく場合、取組者にカード内容の考え方について理解してもらい訪問している。
社会福祉協議会がカードについての考え方のマニュアルを作成している。
訪問時の注意事項なども説明している。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

社協にて、年2回フリーマーケットを開催したり、いきいきフェスタ春日の食品バザーに出店し、自主財源の確保に努めている。

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

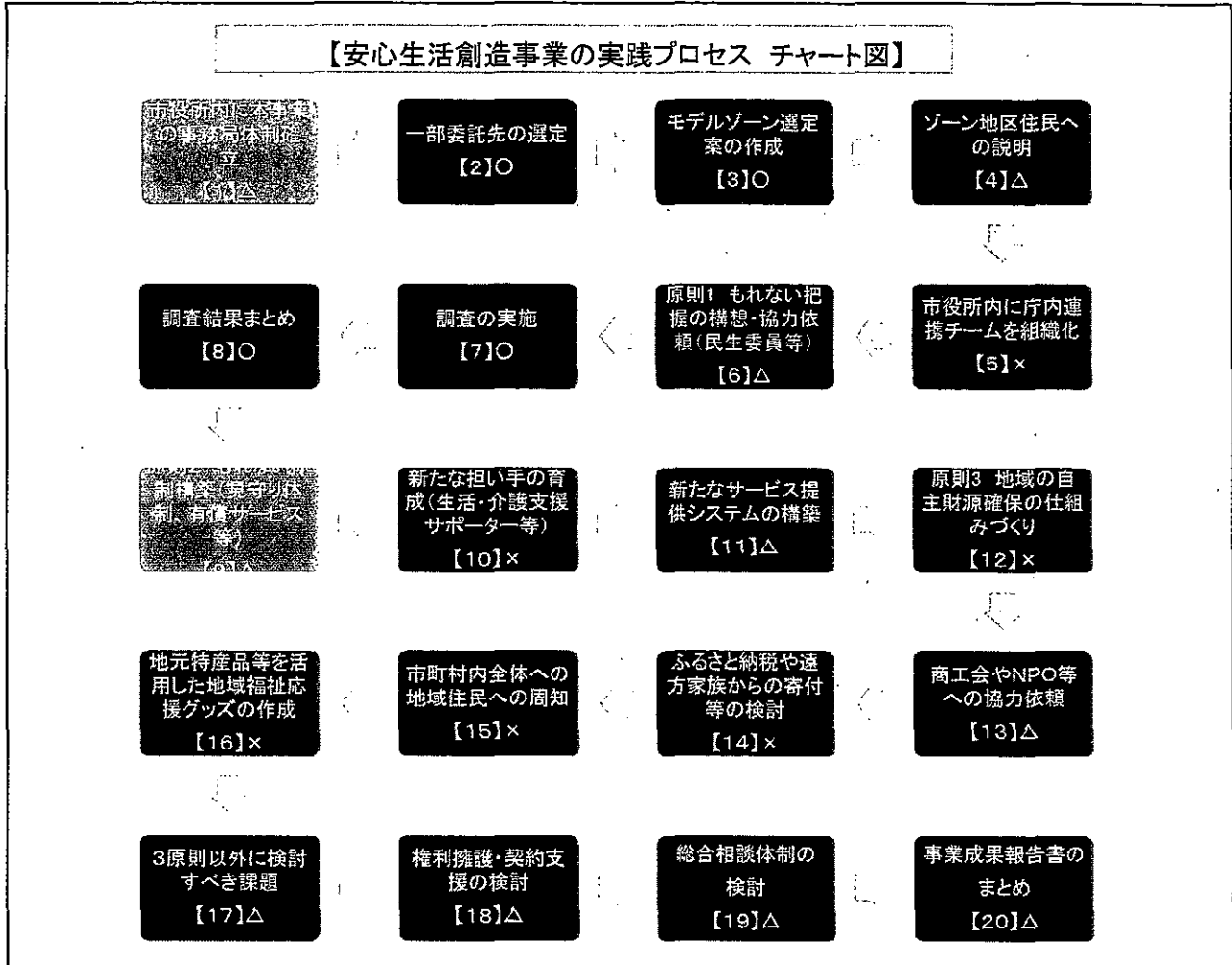
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	山形県	市町村名	酒田市	所属ブロック	北海道・東北
人口(H24.3.31現在)	世帯数(H24.3.31現在)	高齢化率(H24.3.31現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
110,794	41,525	29.1	13,586		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
1,5	△	十分な議論なく補助事業実施に進んでしまったため、事務局として機能しなかった。
9,10,11	△,×	見守り体制を組むことはできたが、有償サービスや新たなシステム構築はできなかった。補助事業終了後に、引き続き市単事業として検討事業に取り組んでいる。
18,19	△	当該事業で学ばせていただいた伊賀市や富士宮市の事例を参考に、当市でも検討を進める方向性である。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

イ. 部局内の連携の仕方

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

カ. 個人情報の取り扱い方

キ. 訪問員の養成のノウハウ

ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

うまく行った内容のアドバイスは残念ながら出来ませんが、当市における反省を踏まえ、当該事業への入り方(臨み方)や当該事業の拡張性についてであれば、多少お伝えできると思います。

※ このアンケートは人口規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会の詳細につきましては、追ってお知らせいたします。

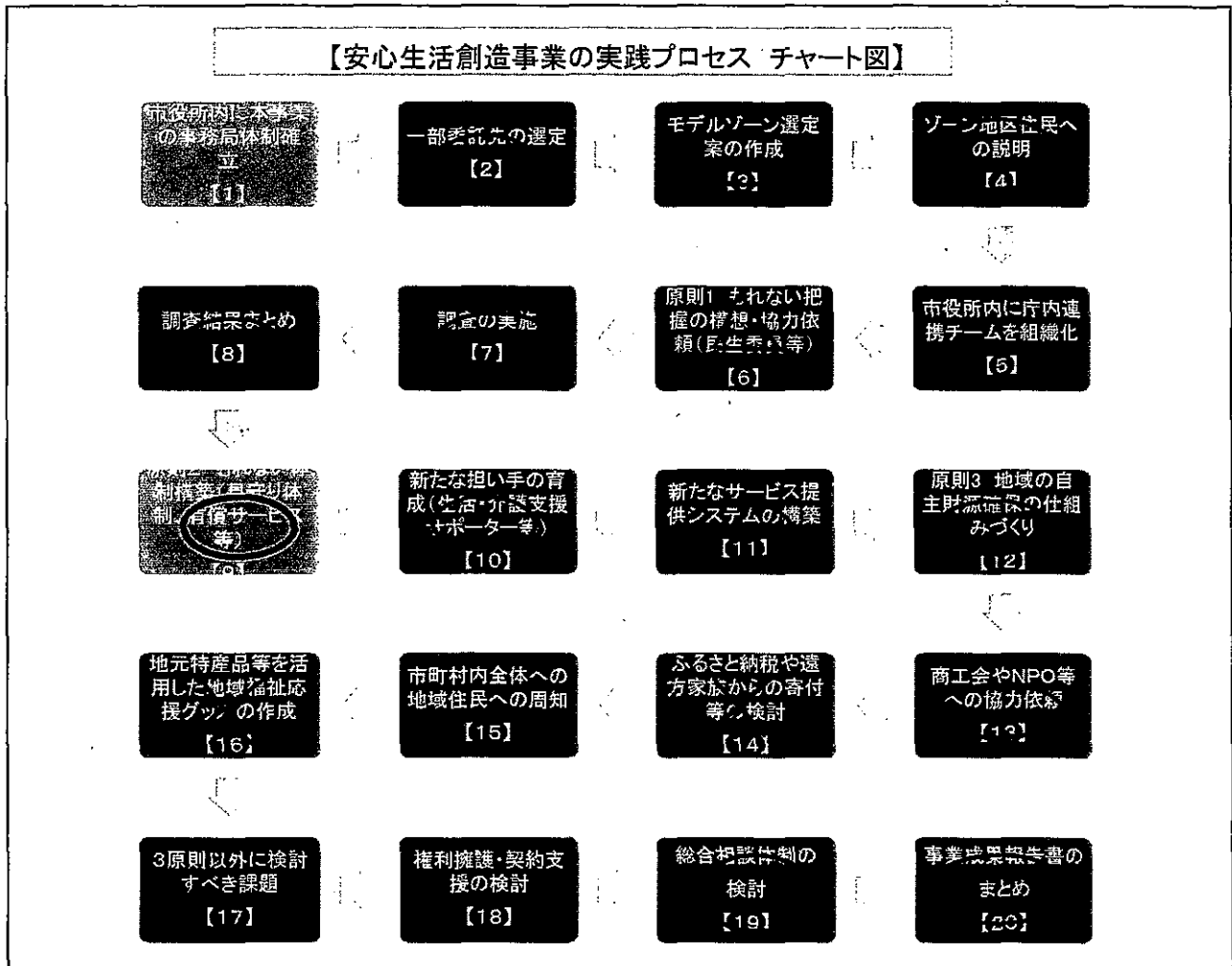
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	兵庫県	市町村名	宝塚市	所属ブロック	近畿
人口(H24.10.1現在)	世帯数(H24.10.1現在)	高齢化率(H24.10.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
234,019	100,464	23.05	16,876		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的内容・理由
6	△	ニーズの傾向の把握にとどまり、支援が必要な個人の把握までできなかった地域がある
14・16	×	社協会費、共同募金を公募、申請型の助成金に充当するという従来の仕組みを活用した

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

- ・事業者による見守り支援
- ・制度の狭間への支援
- ・白瀬川両岸集合住宅協議会(モデル地区)における見守り支え合いの仕組みづくり

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

モデル地区だけではなく、地域の実情に合わせて全市ですすめていった。

イ. 部局内の連携の仕方

安心生活創造事業を当社協の全部署が関わる一貫性のある事業であるため、「安全で安心な楽しいまちづくり事業」として組織内の本事業に対する理解を促すとともに、組織体制の改革に着手した。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

民間事業者に見守りの協力依頼を行った。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

ニーズだけでなく、「支援できること」も項目にいった。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

地域の実情に合わせて進めていっている。

カ. 個人情報の取り扱い方

マップを作成した地域は手上げ方式で実施している。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

生活・介護支援サポーター養成事業等の委託・補助事業を活用して研修・講座を実施。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

- ・募金等の公募配分事業について、安心生活創造事業の推進を図るための誘導策やテーマ設定を図る(未着手)
- ・イメージキャラクターを活用した募金の活性化や収益事業(未着手)。

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。